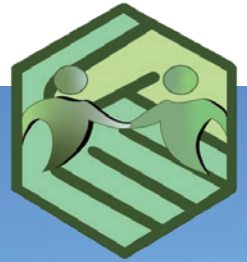




東北のかなめ

vol.68 (2025.3)

東北6県において、地域と防衛との共生を促進するため、
地域と防衛との架け橋になっている東北防衛局の活動をメインに、
関連する情報について、年4回、発信します。



【CONTENTS】

特集 沖縄県道104号線越え実弾射撃移転訓練を支援

東北防衛局の活動

米軍再編に係る三沢基地への移転訓練を支援
下北半島射撃試験と試験海面の設定
東松島市矢本運動公園体育館落成式
令和6年度東北防衛局長感謝状の贈呈
日米交流パラスポーツ運動会 in Misawa 2025
施設整備調査チームの対処能力向上

地域と防衛との共生：関係する皆さまからのご寄稿

宮城県東松島市 ～東松島市と松島基地
航空自衛隊三沢基地 ～三沢まつりへの参加と空自空上げ
米軍三沢基地 ～餅つきと同盟の強化
防衛省 ～風力発電と安全保障の両立に向けて
ムサシノ機器株式会社白河工場 ～安全で安心な航海に貢献
株式会社東管サービス
～青森外(4)隊舎改修等機械その他工事

沖縄県道104号線越え実弾射撃移転訓練を支援

東北防衛局は、令和6年11月24日から12月18日までの間、宮城県の王城寺原演習場で行われた在沖米海兵隊による「沖縄県道104号線越え実弾射撃移転訓練」を支援しました。

東北防衛局は、期間中、演習場内に「現地連絡本部」を設置し、職員約35人程度で、訓練部隊に対する支援や関係自治体などへの情報提供、演習場周辺地域の巡回警備などを24時間態勢で行いました。

訓練開始に先立ち、訓練部隊の指揮官である第12海兵連隊第3大隊長のフランク・J・マストロマウロ中佐は、地元自治体の理解を深めるため、演習場が所在する大和町、大衡村及び色麻町をそれぞれ表敬訪問し、訓練の受け入れと支援に対する謝意を伝達するとともに、「日米で合意されている内容を厳守し、安全第一に訓練を実施したい」と述べました。

また、12月4日には地元自治体の関係者約30人と報道関係者を対象者とした訓練見学会を実施し、参加者は、米海兵隊員による155ミリ榴弾砲、小火器などの説明に耳を傾けていました。



現地連絡本部の看板を設置する
同本部長(佐藤企画部長)
(11月24日)



浅野俊彦大和町長(左)を表敬する
マストロマウロ大隊長(右)
(11月27日)



155ミリ榴弾砲の説明に耳を傾ける
訓練見学会の参加者(12月4日)

射撃訓練は事故等もなく、無事に全日程を終了しました。

訓練を終えた米海兵隊員は、地域貢献や交流活動の一環として、おおひら万葉こども園(大衡村)を訪問。園庭で園児と綱引き対決や混合リレーなどを行い、その後、屋内で園児や海兵隊による踊りや歌の披露、園児一人一人と英語で会話するなど充実した交流となりました。また、交流会の後には、園のウッドデッキのペンキ塗りに汗を流しました。



園児と綱引きをする米海兵隊員
(12月12日)

【沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施】

沖縄県に所在する米軍施設キャンプ・ハンセンにおいて実施されていた155ミリ榴弾砲による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練については、実施の都度、県道104号線の交通規制が行われることや訓練の危険性などを理由として、沖縄県等はその取り止めを強く要望していました。

このような要望を踏まえ、沖縄県の負担を軽減することを目的として、平成9年度からキャンプ・ハンセンでの同訓練を取り止め、本土5か所の演習場(矢臼別演習場(北海道)、王城寺原演習場(宮城県)、北富士演習場(山梨県)、東富士演習場(静岡県)、日出生台演習場(大分県))において同訓練を分散・実施することが、日米間で合意されました。

同訓練の分散・実施については、5か所の演習場の関係自治体からの理解を得て、平成9年度から行われています。

米軍再編に係る三沢基地への移転訓練を支援

12月2日から12月13日までの間、米軍再編に係る岩国飛行場（山口県岩国市）から三沢基地（青森県三沢市）への訓練移転（共同訓練）が実施されました。

三沢基地における航空機の訓練移転の実施は、日米間の相互運用性を向上させるとともに、在日米軍飛行場周辺における訓練活動の影響を軽減することを目的とした米軍再編の一環であり、今回で11回目となります。今回の訓練移転には、米軍岩国飛行場からFA-18が参加し、航空自衛隊三沢基地からはF-35Aが参加しました。



本部長（榮森企画部次長）（左）と
副本部長（嶋崎三沢防衛事務所長）（右）



現地連絡本部の様子



三沢飛行場周辺での騒音測定の様子

東北防衛局は、米軍への支援に加え、訓練移転先となる三沢基地周辺住民の方々の安全、安心を図るため、11月27日から12月17日までの間、三沢防衛事務所内に現地連絡本部を設置し、関係機関等との連絡調整、騒音測定を行うとともに、三沢市をはじめとする関係自治体に対する日々の訓練状況などの情報提供や、訓練実施にあたっての関係自治体等からの要請内容を訓練部隊指揮官に伝えるなど、訓練の円滑な実施と周辺住民の方々の不安解消に努めました。

下北半島射撃試験と試験海面の設定

令和7年1月11日から1月17日までの間、防衛装備庁下北試験場（青森県東通村）において、海上自衛隊が使用する弾薬の海面への射撃試験が行われました。

東北防衛局郡山防衛事務所は、自衛隊の装備品等を調達する際に、監督・検査を行っており、今回の射撃試験は、企業が製造した弾薬が所要の品質を満たしているかを確認するため、行われました。

また、今回の射撃試験は、海面での漁業の操業を制限して行う必要があるため、同局企画部は、関係する漁業協同組合からご理解とご協力をいただき、漁業の操業制限と損失の補償について合意を取り交わしました。



下北試験場に設置されている127mm基準砲。
試験では、海面に向け射撃試験を行った。

東松島市矢本運動公園体育館落成式

2月15日、宮城県東松島市において整備が進められていた矢本運動公園体育館が完成し、落成式が行われました。本施設は、地域の健康増進と災害等の避難場所としての機能を持ち、東松島市が、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律に基づく防衛施設周辺整備統合事業として、建物部分約4億3千万円のうち、補助金約1億3千万円を活用し、整備しました。また、体育館の備品には、同法に基づく特定防衛施設周辺整備調整交付金約1.4千万円が活用されました。

式典では、渥美巖東松島市長が、「本施設は、各種武道に加え、様々な年代の方が親しむことのできるニュースポーツを楽しめる施設となっております。これから市民の皆様にはこの体育館を有効的に活用いただき、スポーツ健康都市の名のとおり、世代を超えたスポーツ交流を通し、元気なまちづくりの一助となることを祈念しております」と挨拶しました。

また、東松島市の柔道協会、剣道連盟、躰道(たいどう)協会、空手道連盟の選手代表も挨拶をし、施設の完成を祝いました。



完成した体育館の全景



体育館の完成を祝いテープカット



式典の後、躰道などの演舞が披露

令和6年度東北防衛局長感謝状の贈呈

池松東北防衛局長は、小檜山吉紀三沢市長、米田光一郎三沢市前副市長、一力敦彦東北防衛施設地方審議会前会長(東北放送代表取締役社長)に、感謝状を贈呈しました。

小檜山三沢市長と米田前副市長は、長きに渡り、三沢飛行場や三沢対地射爆撃場の安定的かつ円滑な運用のために、ご尽力されました。また、一力前会長は、東北防衛施設地方審議会委員及び会長として、同審議会の発展に、ご尽力されました。



小檜山三沢市長(左)と池松局長(右)
(11月20日)



米田三沢市副市長(当時。左)と
池松局長(右)(12月11日)



一力前会長(左)と池松局長(右)
(12月13日)

東北防衛局は、在日米軍と地域の相互理解を深め、在日米軍への地域の理解と協力を得るため、在日米軍の関係者と地域住民との「日米交流」の促進に取り組んでいます。

2月8日、青森県三沢市において、日米交流パラスポーツ運動会 in Misawa 2025 を開催し、米軍三沢基地と周辺地域の日米の小学生と保護者約40名が参加しました。



目まぐるしい攻防をみせたボッチャ



たすきの受け渡しที่難しい
車いすリレー



車いすの操作に苦労しながらも
白熱した車いすバスケットボール

日米の参加者は、混合4チームに分かれ、「ボッチャ」「車いすリレー」「車いすバスケットボール」の3競技で勝敗を競いました。参加者からは「みんなフレンドリーで楽しかった。」「子供が楽しめるイベントはとても良いと思う。」などの感想が寄せられました。

在日米軍と地域の相互理解の一助となるよう、今後も様々な形で活動していきます。

ドローンの規制についてのお知らせ

小型無人機等飛行禁止法により指定されている**自衛隊施設／米軍施設**その**周辺地域**(周囲約300m)の上空における**ドローン**等の飛行は、**原則として禁止**されています。

これに違反した場合、次のような措置／罰則もあります。

- 警察官等による安全確保措置
- 最大懲役1年／罰金50万円

対象防衛関係施設および飛行をさせたい場合の手続きの詳細については、防衛省HPをご参照ください。



○お問い合わせ先: 東北防衛局 地方調整課 022-297-8212
三沢防衛事務所 0176-53-3118
E-mail: drone-th@tohoku.rdb.mod.go.jp (共通)

周辺財産の個人・企業等に対する有償使用許可のご案内

三沢・八戸・松島の各飛行場周辺、三沢対地射爆撃場周辺及び王城寺原演習場周辺に「周辺財産」(移転補償跡地)と呼ばれる国有地があります。

土地の有効活用を図る観点から、周辺財産(移転補償跡地)の行政目的を妨げない範囲で、**個人、企業等に対しても、一定の条件の下、有償での使用許可を行うこと**としています。

○お問い合わせ先
東北防衛局 施設管理課緑化対策係
電話: 022-297-8213

○こちらから関連ページへアクセスできます



施設整備調査チームの対処能力向上

調達部は、令和6年12月24日と令和7年2月12日の2日間、施設整備調査チームのチーム員を対象に教育を行いました。

施設整備調査チームは、地震、大雨などの災害等により被災した自衛隊施設について、技術支援等を迅速・的確に実施し、早期復旧を図るため、東北防衛局に設置されており、調達部の職員で構成されています。

12月24日の教育では、災害時に備えて保管している資機材について、台帳と照らし合わせながら確認し、その操作方法の確認を行いました。また、2月12日の教育では、応急危険度判定のマニュアル動画を用いた教育を実施し、緊急事態等における対処能力の向上を図りました。



保管している資機材の事前説明
(12月24日)



線量計の操作手順の確認
(12月24日)



応急危険度判定のマニュアルを教育
(2月12日)

応急危険度判定: 地震等により被害を受けた建築物などについて、二次災害を防止するため、余震等による倒壊の危険性や外壁等の落下などの危険性を応急的に判定すること。

東北防衛局では 事務官・技官を募集しています

『自衛隊・在日米軍・地域を繋ぐ架け橋として』

詳しくは、
防衛省HPを
ご確認ください。



日米交流かかし作り交流プロジェクトinつがる2024
(令和6年7月8日)



応急危険度判定訓練
(令和6年2月9日)

『技術の知識や経験を日本の防衛のために』

宮城県東松島市 ～東松島市と松島基地

東松島市は、航空自衛隊松島基地との共存共栄を掲げ、松島基地の任務遂行にあたっては、基地の安定使用と周辺住民の基地に対する理解が重要であると捉え、日頃から協力体制を築いています。昨年は、松島基地の理解促進を図るため、東松島市役所の幹部職員が松島救難隊の視察を実施しました。



松島救難隊の視察

毎年8月の最終日曜日には松島基地航空祭が開催され、航空祭の前日に行われる東松島夏まつりと合わせ、本市最大のイベントとなっています。

特にブルーインパルス展示飛行は2日間で3回行われ、県内外から多くの観光客や航空ファンが来場して、大きな賑わいをみせています。

令和6年11月にオープンした「道の駅東松島」は、その立地から眺望がすばらしく、2階デッキや広場ではブルーインパルスを撮影するお客さんが多数見受けられます。



多くの来場者で賑わう松島基地航空祭

道の駅のコンセプトとして松島基地やT-4ブルーインパルスの要素をふんだんに取り込んでいるほか、ブルーインパルス飛行時のパイロットから見た風景を体感できるVRを備え、開業から多くのお客様にご利用いただいています。



道の駅東松島開業式典



ブルーインパルス搭乗体験VR

航空自衛隊松島基地と共存共栄するまち東松島市の「東松島夏まつり」、「松島基地航空祭」、「道の駅 東松島」にぜひお越しください。

航空自衛隊三沢基地 ～三沢まつりへの参加と空自空上げ

令和6年度の三沢まつりは、100回の節目を迎え、三沢基地としても全面的に協力するとともに、多くの隊員が各種イベントに参加しました。

みこしパレードに第3航空団が、流し踊りに北部航空警戒管制団及び北部高射群が、大仮装行列に北部航空施設隊が、太鼓演舞に基地太鼓部が、国際パレードに北部航空音楽隊がそれぞれ参加するとともに、100回目ということもあり、F-35A×3機の航過飛行も実施しました。

三沢まつりは地域住民相互の交流を深め、三沢市を活性化する重要なイベントです。日米三沢基地の隊員が多く参加することにより、地域の活性化に寄与できたと思います。



第3航空団によるみこしパレード



北部航空音楽隊によるパレード

また、三沢基地は、隊員食堂で提供している空自空上げを三沢市内の飲食店で提供するプロジェクトを三沢市と共同で行っており、市内14の店舗で空自空上げが提供されています。

三沢基地の空上げは、地元産鶏肉と特産「ごぼう」を使用し、にんにくを効かせた秘伝のたれに鶏肉を漬け込み、表面にごぼうを付けて揚げたものです。提供レシピどおりの「オリジナル」と、店舗ごと独自のアレンジを加えた「アレンジ」の2種類で提供されています。



三沢基地空自空上げをPRする
空自空上げ普及させ隊のからっと隊長



三沢市内の色々なお店で楽しめる
三沢基地空自空上げ

米軍三沢基地 ～餅つきと同盟の強化

2025年1月23日、三沢基地において恒例の餅つき行事が開催され、航空自衛隊と米軍の指揮官が一堂に会し、日本文化を満喫しました。日本における新年の象徴である、昔ながらの餅作りを体験する貴重な機会となりました。空自隊員が熟練の技で蒸し上がったもち米をつき、形を整える様子を披露。米軍兵士も意欲的に参加し、文化交流を通じた関係の深化を図りました。米日の団結とチームワークを象徴するシーンとして、杵(きね)を振るうたびに響く小気味よい音と、周囲からの掛け声が一体となり、会場は活気に満ちあふれていました。



航空自衛隊の藤田三沢基地司令(左)と
米空軍のケンケル三沢基地副司令官(右)



空自隊員と餅つきを楽しむ
米空軍第35整備群のウオン司令(左)

米軍兵士にとって、このような伝統行事は、日本文化の豊かさへの感謝の気持ちを深めるだけではなく、ホストネーションである日本の習慣や価値観への尊重に繋がります。こうした文化交流は、単なる親睦にとどまらず、長きにわたる米日同盟を深化させ、インド太平洋地域の安定と安全保障の維持に貢献する礎となるものです。

三沢基地における文化交流は、両国の架け橋として機能し、互いを尊重し、協力する精神を醸成するものです。部隊運用の枠を超え、米軍兵士と自衛隊員が、末長く続く関係を培うことで、相互運用性とパートナーシップの向上につながります。このような交流を積み重ねることで、米日両国は同盟の結束をさらに深め、地域の平和と安全に対する共通の決意を確固たるものにしています。

米軍三沢基地の兵士は、日本の伝統を受け入れ、積極的に体験することにより、文化への理解を深め、長く両国間で育まれている友好関係に貢献しています。これらの体験は、文化外交の重要性を際立たせ、強固で結束した部隊を育み、揺るぎない同盟関係を支える絆をより一層強める役割を果たしています。

政府として2050年までに脱炭素社会を目指すとされている中、風力発電の導入は今後拡大する見込みです。他方、多数林立する風力発電設備は、自衛隊のレーダー等や人工衛星と地上局との間で行われる無線通信に障害を及ぼすおそれがあります。

このような背景を踏まえ、本年3月1日、「風力発電設備の設置等による電波の伝搬障害を回避し電波を用いた自衛隊等の円滑かつ安全な活動を確保するための措置に関する法律」(防衛・風力発電調整法)が施行されました。

防衛・風力発電調整法は、風力発電設備の導入促進と自衛隊・在日米軍の活動との調和を図るため、風力発電設備の設置者と防衛大臣が協議する仕組みを制度化したものです。

具体的には、防衛大臣が告示で指定する陸上区域(電波障害防止区域)において風力発電設備を設置等する者は、防衛大臣への届出が義務付けられ、自衛隊等の使用する電波の伝搬に障害が生じる場合には、最大2年間、設置者と防衛大臣が協議を行うこととなり、協議の期間中は工事に着手することができません。

電波障害防止区域については、本年3月3日に告示を行い、約2箇月間の周知期間を経た本年5月1日から施行することとしており、これにより防衛・風力発電調整法に基づく制度の運用が本格的に開始されることとなります。

これを踏まえ、東北防衛局では、電波障害防止区域の告示後、関係自治体等の皆様への周知を図ることを目的に、約50の自治体等の皆様に対し、法律の概要、電波障害防止区域の考え方などについて説明を行いました。

〈 風力発電関係者の皆様へのお願い 〉

電波障害防止区域は、防衛省ホームページに掲載しておりますので、あらかじめご確認いただくようお願いいたします。

また、電波障害防止区域内であっても、風力発電設備の場所や高さによっては、設置等が可能な場合があるほか、電波障害防止区域外や洋上であっても、自衛隊等の運用に影響を及ぼす可能性があることから、事業計画策定の初期段階で事前にご相談いただきますよう、お願いいたします。

【防衛省の相談窓口】 防衛政策局運用基盤課 連絡先:(代表)03-5366-3111

【防衛省ホームページ】「風力発電設備が自衛隊・在日米軍の運用に及ぼす影響及び

風力発電関係者の皆様への事前相談のお願い」



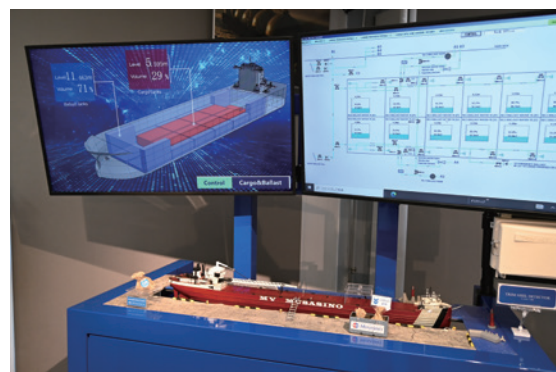
ムサシノ機器株式会社は、船用の液面計(注1)などの各種センサーやバルブのコントロールシステムなどのシステム製品といった船用機器の企画・製造・保守を行っており、海上自衛隊の船舶についても、300隻の納入実績があります。

白河工場(福島県泉崎村)は、当社が国内外に擁する2つの生産工場の1つであり、当社の製品のコアとなる部品、モジュールの生産などの役割を担っています。

船舶には、燃料タンク、バラストタンク(注2)、カーゴタンクなど、様々なタンクがあり、当社は、あらゆる用途のタンクに合わせた高精度な各種センサーを生産しています。また、例えば、高精度の液面計とトリム・ヒール計(注3)からのデータをもとに、自動でタンクの液量を調整するシステムなど、人員不足の解消や安全性の確保に繋げるため、「どの船員が操作しても同じ作業効率や負担を減らすソフト制御」をコンセプトにしたアシストシステムの開発に力を入れています。

また、当社は、平成12年、「泉崎村の里山を守り、地域への貢献をモノ作りを通してやってみよう」をコンセプトに、社会活動プロジェクト企業「もくたん工房」を立ち上げました。当社のOBらで、耕作放棄された田んぼの再生を行い、米作りなどを続けており、現在は、子ども食堂へのお米の寄付も行っています。

当社は、企業構想として「GLOCAL」を掲げており、多国籍に拠点を持つ、多国籍人材のグローバル企業として、また、地域社会との結びつきを大切にするローカル企業として、今後も、安全で安心な航海に貢献してまいります。



自動バラストコントロールシステム。様々なセンサーからのデータをもとに、自動でバラスト用のバルブを操作できる。



白河工場にある30m試験タワー。大型船のタンク高さと同等のサイズで、実液による実証試験ができる。



もくたん工房のお米。福島県白河市と当社が所在する東京都大田区のこども食堂に寄付している。右上は、大田区社会福祉協議会からの感謝状。

注1: タンク内の液面の高さを計測する装置

注2: 船舶の安定性を保つためのバラスト水(海水又は清水)を積載するタンク

注3: 船舶の縦方向(トリム)と横方向(ヒール)の傾斜を計測する装置

株式会社東管サービス ～青森外(4)隊舎改修等機械その他工事

株式会社東管サービスは、平成元年、青森県弘前市において、創業しました。当社は、管工事を主体にリモデル、建築、土木、電気、官公庁工事等を通じて、弘前駐屯地がある弘前市の地元企業として地域住民との関係構築にも積極的に取り組んでいます。

昨年7月、東北防衛局発注の「青森外(4)隊舎改修等機械その他工事」にて、青森駐屯地の隊舎の空調設備改修、弘前駐屯地の屋外給汽設備新設・撤去等を施工して、令和6年度優秀工事顕彰を受けました。

当該工事においては、3Dスキャナを活用することにより、工事現場の確認時間を短縮し、居住者等の立ち合いの負担を軽減するとともに、施工図作成の効率化を図りました。また、立体的に分かりやすい3D-CADを使用して工事内容及び施工手順を関係者に説明し、部隊運用に支障が出ないように配慮しました。このような取り組みが評価されたと思います。

当社では、今後も東北防衛局発注の工事に参加して、自衛隊の運用に留意しつつ、より良い品質の工事目的物ができるように努めてまいります。



東管サービスの社屋(上)と
社員みんなでの集合写真(下)



陸上自衛隊青森駐屯地 機械室



陸上自衛隊青森駐屯地 冷凍機

編集後記

東北防衛局は、自衛隊の活動などを伝える専門紙「朝雲」への記事の投稿に力を入れています。「朝雲」を発行する朝雲新聞社では、毎年、特に優れた投稿記事などを表彰する「朝雲賞」を実施しており、この度、東北防衛局は、記事の投稿に積極的な部隊などを表彰する「朝雲」優秀掲載賞を9年連続で受賞しました。今後も、いろいろな媒体を活用し、東北防衛局の活動を発信してまいります。

